

No	感染症(PT)	出典	概要
77	鳥インフルエンザ	WHO/ Avian influenza 2007年2月27日	2007年2月27日、ラオス保健省はH5N1トリインフルエンザウイルスの初めてのヒト感染症例を報告した。Vientianeの15歳女性で、2月10日にインフルエンザ様症状を呈し、15日に入院した。17日にタイの病院に移り、現在、安定した状態である。タイの国立保健研究所による検体検査で、H5N1感染陽性と確定された。少女と接触のあった大人はオセルタミビル予防的服用を行った。今までのところ全員健康である。
78	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年12月15日	パキスタンにおけるトリインフルエンザの状況: パキスタン保健省はPeshawar地域におけるH5N1トリインフルエンザのヒト疑い症例8例をWHOに報告した。これらの症例は家禽におけるH5N1アウトブレイクに対する処分後に発見された。1例は回復したが、さらに2例の疑い症例が死亡した。疑い症例の検体は国立研究所の検査でH5N1陽性であったが、WHOで更に確定・分析中である。
79	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年12月4日、2007年12月9日	中国におけるトリインフルエンザの状況 (update4): 2007年12月4日、中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスの新規のヒト感染症例を報告した。症例はJiangsu省の24才の男性で、12月2日に死亡した。中国での確定例は26例で、うち17例が死亡している。(update5): 2007年12月9日、中国衛生省は同ウイルスの新規ヒト感染症例を報告した。Jiangsu省の52才の男性で、12月2日に同ウイルス感染で死亡した24才男性の父親で、現在入院中である。
80	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年2月3日	2007年2月3日、ナイジェリア政府は死亡したLagos出身の22歳女性からA/H5N1トリインフルエンザウイルスが検出されたと発表した。ナイジェリアの研究所で陽性となり、WHO協力センターで確定された。感染源を特定するために更に調査中である。この患者との接触者からの検体は陰性であった。ナイジェリアでは家禽でのアウトブレイクでH5N1ウイルスが同定されており、トリインフルエンザによる散発的なヒト感染症例は予想された。
81	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年3月8日	ラオス人民民主主義共和国の保健省は同国で初めてのH5N1トリインフルエンザによる死亡例を確定した。Vientianeの15歳女性で、2月27日に感染が発表され、タイの病院に入院後、3月7日に死亡した。
82	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年5月30日	中国におけるトリインフルエンザの状況 (update2): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規のヒト感染症例を報告した。5月23日に確定診断された。この症例はFujian省に駐留していた19才の兵士で、5月9日に発症し、5月14日に入院した。病気のトリとの接触は確認されていない。中国での確定例は25例で、うち15例が死亡している。
83	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年6月4日	中国におけるトリインフルエンザの状況 (update3): 中国衛生省は同国で16例目のH5N1トリインフルエンザウイルスによる死亡例を報告した。症例はFujian省に駐留していた19才の兵士で、6月3日に死亡した。中国での確定例は25例で、うち16例が死亡している。
84	鳥インフルエンザ	YAHOO!ニュース(毎日新聞) 2007年1月16日	2007年1月16日、農林水産省は、宮崎県清武町の谷口野卵場黒坂農場で発生したトリインフルエンザは高病原性ウイルスH5N1型によるものであることを確認したと発表した。アジアを中心に鳥から人への感染が続く強毒型の可能性が高く、遺伝子解析をして感染経路を究明する。厚生労働省は国内での人への感染の危険は低いと見ている。
85	鳥インフルエンザ	英国保健省 2007年3月20日	2007年3月20日現在、感染したトリとの接触の結果、ヒト281名がトリインフルエンザに感染し、その内169名が死亡した。H5N1がヒトからヒトへ簡単に伝染する能力を獲得したとの明確な根拠はないが、ウイルスがこの能力を獲得するか、またはヒトのインフルエンザウイルスと混ざって新しいウイルスを作ることが懸念されている。2007年2月3日にSuffolkで家禽にH5N1アウトブレイクが発生したが、現在のリスクレベルは極めて低い。
86	鳥インフルエンザ	鶏の研究 2007; 82(10): 35-37	高病原性鳥インフルエンザの発生した京都府丹波町で冬季に活動するハエ類の分布調査を行い、採取したオオクロバエとケバククロバエからH5N1亜型インフルエンザウイルス遺伝子が検出され、一部から感染力のあるウイルスが分離された。両クロバエは冬に繁殖し、移動能力も高く、鳥インフルエンザに感染したニワトリの糞と一緒にウイルスを取り込んで伝播した可能性が示唆された。
87	鳥インフルエンザ	鶏の研究 2007; 82(11): 40-43	農場周辺で採取したクロバエの消化管からRNAを抽出し、鳥インフルエンザウイルスの検出と分離を行ったところ、マトリックス蛋白質とヘマグルチニンの遺伝子断片を検出し、強毒タイプであることが確認された。またオオクロバエの消化管から分離されたウイルスはH5N1亜型で、鳥インフルエンザで死亡したニワトリから分離したウイルスと同一であった。ウイルスはオオクロバエの体内で24時間感染性が維持され、伝播する可能性が示唆された。